



新年あけましておめでとうございます

新年あけましておめでとうございます。昨年は酷暑とインフルエンザならびにコロナウイルス流行に悩まされた年となりました。その中で、さまざまな行事や活動で、保護者の皆様にご支援、ご協力いただきました。誠にありがとうございました。

本年は、4月から吉川中学校の生徒と本校児童が同じ屋根の下で学ぶこととなります。これまで以上に、教職員一丸となって、大切なお子様にとって「すべての児童にとって、楽しくてたまらない学校」となることをめざして、ご家庭と連携しながら取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。 校長



令和6年4月から吉川中学校と一緒に校舎を活用します！！

新年が明けて、令和6年が始まりました。気持ちを新たに今年も地域・保護者のみなさま、子どもたちのために「よりよい学校づくりがよりよい町づくりに繋がる」ことを念頭に置いて、全教職員とともに1日1日を大切に取組んでいきたいと思っています。

さて、今年4月より2年間、吉川中学校の生徒と本校児童と一緒に光風台小学校校舎を活用して、学校生活を送ります。基本的にA棟を小学生、B棟を小・中学生共用、C棟を中学生が使います。給食も小・中学生ともに自校給食となり、温かい給食を食べます。また、2学級に対して、1教室の多目的教室を配置します。この多目的室は、分割授業や更衣等にも活用します。職員室、保健室、理科室、音楽室は小・中学校ともに1つずつ設置します。コンピュータ室はなくなり教室でのタブレット活用を進めます。図書室、家庭科室、図工（美術）室は1つで小・中学生兼用となります。チャイムは、基本ノーチャイムで小学生45分間、中学生50分間の授業を行います。

通学路については、新光風台在住の子どもたちは今まで通り。光風台在住の子どもたちは、中学生が光風台地区ならびに東ときわ台小校区、吉川小校区から通うこととなり、光風台大橋が混雑することを鑑みて、基本小学生は郵便局側、中学生は学校側のそれぞれ歩道を歩いて、登下校するようにいたします。また学校へ登校する時間帯のピークが小学生8時～8時10分、中学生8時10分～20分となるため、これまでの状況と

比較しても大きな混乱はないのではないかと考えています。ただし、通勤等で新光風台から光風台駅の方へ向かう方や光風台駅から新光風台の方へ向かう方には今まで以上に迷惑をおかけする可能性があります。児童生徒には、通勤される方々のご迷惑にならないよう、指導してまいります。



中学生のクラブ活動については、新光風台地区を利用して、運動部のランニングを行いたいと考えております。吹奏楽部はC棟音楽室を中心に活動しますので、新光風台地区のみなさまには、今まで以上に学校からの楽器音などが聞こえてくるのではないかとと思いますが、何卒ご理解ご協力の程、よろしくお願い致します。また、放課後のグラウンド使用についても、児童育成室やわくわく事業で放課後小学生も活用しています。中学生のクラブ活動において、時間帯ごとに練習メニューを工夫しながら、小学生と中学生が運動場を共用できるように進めていきたいと考えています。

まだまだこれから細かいところで調整したり、工夫改善したりしなければならない所がでてくると思います。その都度、小・中学校ならびに町教育委員会と連携し、地域のみなさま、保護者のみなさまにご協力いただきながら進めていきたいと思っております。何かお気づきの点等がありましたら、遠慮なく学校までご連絡いただきますよう、どうぞよろしくお願い致します。

『どうして学校へ行くのか』～子どもの人間的成長に学校は役立つのか～ 大田 堯著

冬休みに表題の本を手に取りました。学校でのいじめや暴力等をめぐる深刻な問題が後を絶ちません。また子どもたちの学習への意欲低下、学校への登校意欲の低下が本校でも顕著に見られるようになってきました。人が人として成長するために、学校はこれまでどのような役割を果たしてきて、これから何ができるのか。教師は、授業は、学校は今の子どもや保護者のみなさまの期待やニーズに応えられる改革をどう進めればいいのか。みなさんと一緒に考えるきっかけになればと。(以下、本文抜粋)

『かつて学校は、地域の住民やその子どもたちにとって、地域の外側から入ってくるもっとも新しい情報を提供するただ1つの場としての役割を果たしてきました。現在は情報を伝えるということだけでは、もはや学校の存在理由は失われている。』『学校は、科学的知性と基礎学力をすべての子どもたちに保障することで、その本来の任務を全うすべきなのです。』『人が学ぶことの本当の意味は、違いを前提とした上で、お互いに通じ合う能力を身に付けること、そこで獲得される教養とは、他人の身になって考える能力の深さ、広さをいうのです。』『人間が作り出したいろいろな文化をめいめいの内面でいわば再創造しながら、人としての自分をきたえ、つくっていく場が学校である。』『子どもたちの「なぜか」の問いがいつも学習活動をすすめる中心でなくてはならない。』『学校が一番大切にしたいものは、子どもたちの一人ひとりの探究心を鍛えることだ。』

